

川崎市黒川青少年野外活動センターの指定管理について

次のとおり指定管理者制度を継続する。

1 指定管理を行う施設の名称及び所在地

川崎市黒川青少年野外活動センター

川崎市麻生区黒川 3 1 3－9

2 次期指定管理期間

平成 3 1 年 4 月 1 日から平成 3 6 年 3 月 3 1 日まで 5 年間

3 指定管理者の応募方法

公募

青少年教育施設におけるこども未来局との関係

教育委員会事務の委任等に関する規則(昭和 47 年教委規則第 20 号)第 2 条及び第 3 条の規定に基づき、事務委任又は補助執行している。

教育委員会（生涯学習推進課）		こども未来局（青少年支援室）
- 施設及び設備の維持管理及び使用許可に関すること - 施設及び設備の目的外使用許可に関すること	➡	【事務委任】（※ 1） - 施設及び設備の維持管理及び使用許可に関すること(指定管理者が行う事務を除く。) - 施設及び設備の目的外使用許可に関すること。
- 教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 - 設置及び廃止並びに位置及び名称の変更に関すること。 - 教育財産の用途又は目的の変更若しくは廃止に関すること。 - 告示及び公告に関すること。 <u>指定管理者に関すること。</u> - 附属機関に関すること。	⇄ 連携して 行う業務	【補助執行】（※ 2） - 教育委員会規則の制定及び改廃に関すること。 - 設置及び廃止並びに位置及び名称の変更に関すること。 - 教育財産の用途又は目的の変更若しくは廃止に関すること。 - 告示及び公告に関すること。 <u>指定管理者に関すること。</u> - 附属機関に関すること。

※ 1 事務委任：事務を処理する権限の委任がされると、委任庁はその処理権限を失い、受任庁が自己の名においてその事務を処理するもの。

※ 2 補助執行：内部的に執行機関の権限を補助機関に補助執行させることをいい、対外的には本来権限を有する執行機関の名においてその事務を処理するもの。

〈指定管理者に関すること〉※具体的内容は次のとおり

教育委員会（生涯学習推進課）		こども未来局（青少年支援室）
指定管理者制度導入の可否の検討		
指定管理者制度による管理とする場合には、教育委員会での審議		教育委員会への対応
※こども未来局と連携した業務執行	⇄	指定管理者の募集
		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催 (指定管理者予定者の選定)
		指定管理議案の提出
		指定管理者の選定
		協定書締結、業務引継
		モニタリング
		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催（年度評価）
こども未来局による総括評価結果を踏まえるなど、必要に応じて教育行政の視点からの指定管理者制度活用の妥当性を検証し、制度継続の可否を検討		川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会の開催（総括評価） モニタリングの実績を踏まえた、指定管理者制度活用の妥当性の検証

30川こ青第369号

平成30年7月23日

教育長 様

こども未来局長

青少年教育施設の指定管理者制度について（依頼）

教育委員会事務の委任等に関する規則（昭和47年教委規則第20号）に基づき、補助執行しております青少年教育施設のうち、黒川青少年野外活動センターが、平成31年3月31日をもって指定管理期間の満了を迎えるにあたり、7月20日開催の川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会におきまして、指定管理者制度を継続することが適当であるとの審議結果をいただきました。

つきましては、この結果を御報告するとともに、指定管理者制度の継続の可否について、御審議いただきますようお願いいたします。

こども未来局青少年支援室 施設指導・企画担当 鈴木

TEL：044-200-3084

FAX：044-200-3931

MAIL：45sien@city.kawasaki.jp

第6号様式（第12条関係）

公の施設の指定管理者の評価に関する調査審議結果通知書

件 名 青少年教育施設の平成 29 年度評価及び黒川青少年野外活動センターの第3期総括評価について		依 頼 課 名 青少年支援室
		受 付 番 号 30 川こ青第3 2 6 号
施 設 名 称	①青少年の家 川崎市宮前区宮崎 105-1 ②八ヶ岳少年自然の家 長野県諏訪郡富士見町境字塩原 12067-482	
施 設 所 在 地	③子ども夢パーク 川崎市高津区下作延 5-30-1 ④黒川青少年野外活動センター 川崎市麻生区黒川 313-9	
指 定 期 間	①平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで ②平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで ③平成 28 年 4 月 1 日から平成 33 年 3 月 31 日まで ④平成 26 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで	
評 価 対 象 年 度	年度評価：平成 29 年度 総括評価：平成 26 年度～平成 29 年度	
次のとおり、評価を行いましたので、通知します。		
公の施設管理者	法人・団体名	①川崎フィールズパートナーズ ②一般社団法人富士見町開発公社 ③川崎市子ども夢パーク共同運営事業体 ④特定非営利活動法人国際自然大学校
	代表者名	① 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 雑賀 克英 ② 理事長 名取 重治 ③ 公財) 川崎市生涯学習財団理事長 山田雅太 ④ 理事長 佐藤初雄
	所在地	① 東京都世田谷区用賀 4-10-1 ② 長野県富士見町富士見 6 6 6 6 番地 7 0 3 ③ 川崎市中原区今井南町 5 1 4-1 ④ 東京都狛江市岩戸北 4-17-11
評価結果 概ね所管課の評価どおりとする。		

川崎市黒川青少年野外活動センター 施設概要

名 称	川崎市黒川青少年野外活動センター	
所在地	川崎市麻生区黒川 313-9	
開設年月日	平成3年8月1日	
構 造	鉄骨造	
規 模	地上2階 屋上展望台	
敷地面積	16,120.79 m ²	
延床面積	998.67 m ²	
宿泊利用定員	76 人	
宿泊棟	1 階	玄関、事務室、備品庫、指導員室（和室 7.5 畳）、 宿泊室（和室 15 畳×2 室）、 男女トイレ(1)、男女シャワー室(1)、身障者トイレ、 給湯室、機械室、エレベーターほか
	2 階	宿泊室（和室 15 畳×4 室、和室 7.5 畳×1 室） 男女トイレ(1)、身障者トイレ、吹き抜けほか
集会棟	1 階	集合室（食堂）、倉庫
	屋上	展望台
工作室棟	屋上	工作室、給湯室、倉庫、共用トイレ(1)
厨房棟	1 階	厨房、倉庫(2)、野外炊飯場(3)
屋 外		グラウンド、森、散策路、野外トイレ

指定管理者制度活用事業 総括評価シート

評価年月日：平成30年7月20日

評価者：川崎市こども未来局指定管理者選定評価委員会

1. 業務概要

施設名	川崎市黒川青少年野外活動センター
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日
業務の概要	- 施設設備の管理運営及び維持保全に関すること - 施設設備の利用許可及び提供に関すること - 主催事業の企画実施に関すること - 青少年教育行政、市政及び地域行政への協力に関すること - 施設の設置目的に沿った施設の有効活用と利用促進に関すること - その他、仕様書に定める指定管理業務に関すること
指定管理者	名称：特定非営利活動法人国際自然大学校 代表者：理事長 佐藤 初雄 住所：東京都狛江市岩戸北4丁目17番11号
所管課	こども未来局青少年支援室

2. 「評価の視点」に基づく事業期間全体の評価

	評価項目	事業実施状況等
1	市民や利用者に十分な量及び質のサービスを提供できたか。	【事業実績】 仕様書に定められた職員配置がなされ、指定管理業務を適正に実施した。 各年度における特筆すべき取組 平成26年度では、幼児向け自然体験活動「森のようちえん」やBBQインストラクター講習会等、専門性を活かした事業を実施した。また、「黒川のおもちつき」では明治大学黒川農場と提携し、明治大学でつくられた野菜をビンゴの景品にする等、地域と連携した取組がなされた。 平成27年度では、ダッチオーブンを使ったスイーツ作りアウトドアクッキング de スイーツ講座を新たに実施したほか、地域交流・多世代交流事業として、子ども会や小中学校、老人会等と連携し、幼児から高齢者まで参加する自然体験フェスティバルを実施した。 平成28年度では、「ドラム缶ピザ焼き体験」を実施し、火おこしや調理を協力して行うことで、自主性や協調性がはぐくまれたほか、近隣小学校等と連携し、森林インストラクター指導のもと、里山や森の手入れを行う等、環境整備を実施した。 平成29年度では、ブッシュクラフトの指導者養成講座を実施したほか、「アウトドアキッチン」を実施し、子どもと一緒に作れるメニューにする等、親子向けの内容することで、利用者拡大につなげた。 また、SNSの活用や近隣店舗へのポスター設置等、広報活動を積極的に行い、利用者増加に努めている。さらに、アンケート箱を設置する等、利用者のニーズを積極的に把握しており、各部屋にウィンドエアコンを取り付けるなど、利用者サービス向上に取り組んだ。 (利用者数/団体数) 平成17年度：15,136人 / 333団体（指定管理者制度導入以前） 平成26年度：29,386人/849団体 平成27年度：30,439人/846団体 平成28年度：30,469人/846団体 平成29年度：29,915人/861団体 (平成26年度～29年度平均：30,052人/851団体) 【評価】 制度導入以前と比して、利用者数・利用団体数が増加した。野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、質の高い体験事業や世代間交流、地域交流を促進する事業を実施している。また、利用者ニーズを積極的に把握し、施設運営等の改善を図っており、利用者に十分な質、量のサービスを提供した。

2	当初の事業目的を達成することができたか。	【事業目的】 野外活動による体験を通して、青少年の自主性及び協調性をはぐくみ、もってその心身の健やかな発達に寄与すること。 【評価】 事業計画どおりに施設運営がなされた。また、青少年体験事業や黒川・里山事業により、子どもの主体性を養う事業を展開するとともに、様々な工夫を凝らしながら指導者の養成にも力を入れ、黒川青少年野外活動センターにとどまらず、市内の各地域で青少年が野外活動を体験できる機会の創出に寄与しており、様々な野外活動体験を通して、青少年の健全な育成が図られた。
3	特に安全・安心の面で問題はなかったか。	【安全・安心に関する取組】 施設・設備の点検を実施し、適切に維持・補修を行った。指定管理者が持つノウハウをもとに安全管理マニュアルを整備しているほか、熱中症計や雷探知機などを導入している。また、ヒヤリハット事例や事故検討、各種研修を実施した。また、災害対応として、町内会と連携し、近隣の神社の備蓄食料を黒川青少年野外活動センターで利用出来るようにする等、地域と連携した取組を実施した。 【評価】 仕様書に定める業務を確実に遂行し、安全・安心への配慮が十分に行われるとともに、ノウハウを活かしたマニュアルの策定、事例検討、各種研修を通して、職員の資質向上を図った。事故が発生した場合でも、迅速かつ適切に対応しており、利用者の安全・安心を確保している。
4	更なるサービス向上のために、どのような課題や改善策があるか。	引き続き、多くの市民に黒川の自然の中での野外活動等を体験してもらえ環境を維持するとともに、専門性に富んだ職員研修の成果を事業運営に活用するよう努める必要がある。

3. これまでの事業に対する検証

	検証項目	検証結果
1	所管課による適切なマネジメントは行われたか。	【所管課によるマネジメント状況】 年度評価の実施（年1回） 定期的な報告内容の確認（月1回・四半期） 電話等及び訪問指導の実施（随時） 【評価】 事業報告書等によるモニタリングのほか、管理運営事業の実施に際しての指導や問題発生時の対応についての指導等、施設の管理運営に必要な調整等を適正に実施した。
2	制度活用による効果はあったか。	【制度活用による効果】 サービス面 指定管理者制度の導入により、指定管理者の持つ民間のノウハウを活用し、エアコン設置等の施設利用者の利便性向上を図ったことや青少年体験事業や黒川・里山事業、指導者育成事業等の主催事業の充実を図ったことにより、利用者数は大幅に増加した。また、効率的、効果的な業務遂行により、市の財政負担の軽減が図られた。 平成17年度：年間利用者数 15,136 人／利用団体数 333 団体（指定管理者制度導入前） 平成29年度：年間利用者数 29,915 人（197.6%増）／利用団体数 861 団体（258.5%増） コスト面 平成17年度：年 25,304 千円 平成29年度：年 24,832 千円（1.9%縮減）
3	当該事業について、業務範囲・実施方法、経費等で見直すべき点はないか	施設・設備の老朽化に伴い、改善や補修の必要な設備が増えている。利用者の安全を確保するためには、指定管理者の日常点検による保守に努めるとともに、市による長寿命化を含めた計画的な整備が必要になる。
4	指定管理者制度以外の制度を活用する余地はないか	指定管理者の持つノウハウにより様々な利用者ニーズに対応することでサービスの質の向上が図られており、利用者数が大幅に増加している一方、経費については軽減されている。年度評価やモニタリングなどを通じ、所管課による適切なマネジメントが行われている。 民間活用の成果が表れており、引き続き、指定管理者制度を活用することが適当である

4. 今後の事業運営方針について

公の施設としての理念を尊重し、野外活動体験を通じて、青少年の自主性及び協調性を育み、心身の健やかな発達に寄与する施設として、自然体験活動の提供、自然体験活動の指導者養成のほか、地域と連携した事業を通して地域交流を促進している。今後についても、充実した事業展開を行いながら、財政負担を軽減する必要があることから、引き続き現状と同様の管理期間で指定管理者による管理運営を行い、青少年の自主性及び協調性を育み、心身の健やかな発達を図っていく。

黒川青少年野外活動センター 利用実績推移・収支実績の推移

(1) 利用実績の推移

		利用実績推移			
		利用者数(人)	前年度比	利用団体数(組)	前年度比
第1期	18年度	18,417	3,280	421	88
	19年度	22,845	4,428	550	129
	20年度	22,170	▲ 675	590	40
第2期	21年度	26,204	4,034	689	99
	22年度	25,926	▲ 278	696	7
	23年度	26,779	853	700	4
	24年度	28,882	2,103	781	81
	25年度	27,741	▲ 1,141	789	8
第3期	26年度	29,386	1,645	849	60
	27年度	30,439	1,053	846	▲ 3
	28年度	30,469	30	846	0
	29年度	29,915	▲ 554	861	15
	30年度	—	—	—	—

(2) 収支実績の推移

単位:円

		収支実績推移		
		収入	支出	差し引き
第1期	18年度	24,079,458	23,994,678	84,780
	19年度	23,478,149	23,356,326	121,823
	20年度	25,152,710	24,249,892	902,818
第2期	21年度	29,187,039	26,667,535	2,519,504
	22年度	28,477,056	28,843,019	-365,963
	23年度	29,352,072	28,470,760	881,312
	24年度	30,169,653	28,825,366	1,344,287
	25年度	29,898,060	29,485,908	412,152
第3期	26年度	32,442,201	31,396,581	1,045,620
	27年度	33,811,272	33,598,809	212,463
	28年度	32,197,026	32,168,273	28,753
	29年度	32,383,228	32,298,359	84,869
	30年度	—	—	—

(3) 評価点数の推移

		評価点の推移	
		評価点	評価ランク
第1期	18年度	—	—
	19年度	—	—
	20年度	68	C
第2期	21年度	69	C
	22年度	67	C
	23年度	67	C
	24年度	77	C
	25年度	69	C
第3期	26年度	70	B
	27年度	71	B
	28年度	66	C
	29年度	70	B
	30年度	—	—

※当時の評価ランクの区分

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名: 特定非営利活動法人 国際自然大学校

施設名: 黒川青少年野外活動センター

対象年度: 29年度

(単位: 円)

勘定科目、内訳:
・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
・行は適宜、追加削除してください。
・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額:
公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。

②予算額:
年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:
「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③:
毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:
「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内 訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
I 収入の部										
1 指定管理料		24,000,000	24,832,337	832,337	3.5%		24,832,337	0	0.0%	
2 利用料金収入	主催事業	4,080,000	3,600,000	-480,000	-11.8%		5,449,890	1,849,890	51.4%	バーベキュー検定の検定料の値上がりのため。
3 その他	自主事業、薪、シュラフなど	700,000	700,000	0	0.0%		987,787	287,787	41.1%	
4 その他	PA、ドラム缶ピザ指導など	1,800,000	1,500,000	-300,000	-16.7%		1,113,214	-386,786	-25.8%	
(小 計)		30,580,000	30,632,337	52,337	0.2%		32,383,228	1,750,891	5.7%	
II 支出の部										
1 人件費関係										
1 職員俸給		15,750,000	14,600,000	-1,150,000	-7.3%		12,986,212	-1,613,788	-11.1%	
2 職員諸手当		450,000	450,000	0	0.0%		1,828,237	1,378,237	306.3%	給与規程の改訂のため。
3 臨時職員賃金		655,200	655,200	0	0.0%		681,155	25,955	4.0%	
4 退職共済掛金		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
5 法定福利費		2,040,330	2,040,330	0	0.0%		1,656,961	-383,369	-18.8%	
6 その他		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
2 事業関係経費										
1 福利厚生費		60,000	60,000	0	0.0%		80,944	20,944	34.9%	
2 旅費交通費		60,000	60,000	0	0.0%		29,044	-30,956	-51.6%	
3 通信運搬費		312,000	312,000	0	0.0%		357,164	45,164	14.5%	
4 報償費		682,000	682,000	0	0.0%		1,971,859	1,289,859	189.1%	バーベキュー検定費用増のため。
5 研修費		100,000	100,000	0	0.0%		218,642	118,642	118.6%	
6 備品購入費		350,000	1,000,000	650,000	185.7%		49,219	-950,781	-95.1%	
7 消耗品費		3,680,000	3,579,942	-100,058	-2.7%		3,360,693	-219,249	-6.1%	
8 保健衛生費		60,000	60,000	0	0.0%		3,813	-56,187	-93.6%	
9 賃借料		531,000	531,000	0	0.0%		725,920	194,920	36.7%	
10 印刷製本費		210,000	210,000	0	0.0%		219,369	9,369	4.5%	
11 水道光熱費		1,650,000	1,450,000	-200,000	-12.1%		1,556,658	106,658	7.4%	
12 燃料費		120,000	120,000	0	0.0%		107,389	-12,611	-10.5%	
13 修繕費		500,000	500,000	0	0.0%		1,374,841	874,841	175.0%	
14 業務委託費	清掃委託費	2,760,000	2,760,000	0	0.0%		2,650,870	-109,130	-4.0%	
15 手数料		252,000	252,000	0	0.0%		14,432	-237,568	-94.3%	
16 損害保険料		350,800	350,800	0	0.0%		220,758	-130,042	-37.1%	
17 負担金		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
18 租税公課		2,000	854,395	852,395	42619.8%		1,380,507	526,112	61.6%	
19 宿泊費		0	0	0	#DIV/0!		276,804	276,804	#DIV/0!	
20 一般管理費		0	0	0	#DIV/0!		250,000	250,000	#DIV/0!	
4 その他		4,670	4,670	0	0.0%		296,868	292,198	6256.9%	
(小 計)		30,580,000	30,632,337	52,337	0.2%		32,298,359	1,666,022	5.4%	
III 収支(収入と支出の差)		0	0	0			84,869	84,869		
収支比率(収入／支出)		100.0%	100.0%				100.3%			

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	平成29年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 29,915 人 (平成28年度:30,469人)	②年間延べ利用団体数 861 団体 (平成28年度:846団体)
収支実績	1 収入 単位:円 指定管理料 24,832,337 その他収入 7,550,891 合 計 32,383,228 2 支出 人件費・賃金 12,986,212 光熱水費 1,664,047 委託費 2,650,870 消耗品費 3,360,693 修繕費 107,389 その他経費 11,529,148 合 計 32,298,359 3 差引 84,869	
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また事業実施後に反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由) ・施設の目的に沿って、野外活動に関する専門性を活かし、概ね計画どおりに事業を実施している。 ・昨年度モデル実施した、アウトドアに親しむきっかけづくりを目的とした「アウトドアキッチン」を今年度から本格実施。家でも手軽に作れたり、子どもと一緒に作れるメニューであったこと、キッズコーナーを設置し、子連れでも参加しやすくなったこと等により、これまで利用の少なかった主婦層の利用拡大につながることができた。 ・また、当該施設は、青少年に野外活動を体験させる指導者の養成に力を入れており、継続実施しているBBQインストラクター講習会のセンターでの合格者は1,000人を超え、資格取得したインストラクターが地元で講習会を開催しているほか、今年度新たに、ブッシュクラフトの技術を活用できる指導者を養成する「認定ブッシュクラフター講座」をブッシュクラフト株式会社とともに実施、他の体験活動施設からも多数参加し、各教育施設でのプログラム実施につながるなど、指導者を増やすことで、青少年が野外活動を体験する機会の提供に努めている。 ・こうしたことから、年間延べ利用者数は事業計画目標を若干下回っているものの、前指定管理時平均より約10.4%増加した。 【参考】第2期指定管理時(平成21年度～平成25年度)平均延べ利用者数:27,106人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) ・適正な金銭管理・会計手続について、本部との連携を強化し、毎月の収支を本部担当者がチェックするなど、チェック体制の強化を図っており、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、会計処理及び金銭管理を適切に処理している。 ・効率的・効果的な支出について、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	4	8
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) ・施設・事業の広報については、チラシやニュースレター、ラジオ出演、SNSの活用等、積極的に行っているほか、近隣店舗でのポスター掲示やイベント情報サイトに掲載するなど、より多くの人に見てもらおう工夫を行った。 ・利用者への対応については、青少年の家で実施の「マナー研修」に参加し、基本的な接客・電話対応等を学び、接遇向上を図るなど、職員の資質向上に努めた。 ・当該施設は地域と良好な関係を保っており、利用者からの苦情やトラブルはほとんどないが、苦情があった際は、即座に職員会議を行い、職員全体で共有し改善を図っている。 ・学校及び行政機関との連携については、近隣の小中学校における総合的な学習や遠足、奉仕活動等を積極的に受け入れ、野外体験活動を通じた青少年の健全育成を行っているほか、今年度新たに、PTAの家庭教育学級に講師として参画し、災害時に役立つアウトドアのスキル(ロープワークやビニールレインコートの作り方)を指導し、地域との連携の強化を図った。また、ボーイスカウトと相互にノウハウを伝達しあうなど、地域との連携も積極的に図りながら、地域に根差した施設運営を行っている。 ・利用者ニーズについては、今年度から、受付前にアンケート箱を設置し、利用者がいつでも気軽に意見を寄せられる環境づくりに努めたほか、普段から職員による声掛け等を積極的に行うなど、利用者ニーズの把握に努めており、今年度は要望の多かった、各部屋にウインドエアコンを設置し、利用者が過ごしやすいよう環境を整えた。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
(評価の理由) ・人員配置については、主催事業の運営やプログラムの指導の依頼に応じて柔軟な勤務体制を組んで対応しており、教員免許や保育士資格のほか、BBQインストラクター、認定プッシュクラフター等、各種事業に必要な有資格者を配置し、職員の専門知識を活かした事業展開を行った。 ・職員の研修体制については、職員のスキルアップや新規プログラム開発につながるような研修を積極的に受講させるなど、職員の資質向上に努めている。 ・個人情報等の取扱いについては、黒川青少年野外活動センター個人情報の取り扱い方針を遵守し、個人情報の取り扱いについて、適切な運用を行っている。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) ・施設・設備の保守管理については、専門の業者による定期的な点検に加え、職員も月1回施設点検を行っている。また、敷地内の広大な裏山については、地域のネイチャーボランティアや地域の利用団体の協力により適切に管理している。 ・利用者の安全確保については、事故対応マニュアル(安全対策マニュアル)を整備しているほか、熱中症計の使用や経口補水液の常備など、夏場の熱中症対策を行った。また、法人管理の他施設での事例等を活用して、事故検証を行ったり、同施設での事故について法人全体で共有するなど、利用者の安全確保に努めている。 ・災害への対応として、防災訓練を実施したほか、地元の炊き出し訓練に参加したり、災害時には神社の備蓄倉庫食材を利用できる旨の取り決めを町内会と結んでいるなど、日頃から地域と協力し合える関係を築いている。					

注) 配点×(評価段階÷5)＝評価点

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

SNSを活用して新規利用者の獲得に取り組んだり、新たな事業を立ち上げ、利用者層の拡大を図るなど、施設の利用促進に努めている。また、最近全国的に人気の出始めた、プッシュクラフトに関する講座をいち早く取り入れるなど、様々な工夫を凝らしながら指導者の養成に力を入れ、各地域で青少年が野外活動を体験できる機会の創出に寄与するなど、当該施設を中心として、裾野を広げる取組を行っている点は評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も都市における貴重な自然を多くの市民に知ってもらい、地域と連携して、身近に野外活動を体験できる環境づくりを進めようとともに、野外体験活動を通して、青少年の健全な育成が図られるような魅力ある事業を展開してもらいたい。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	平成28年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 30,469人 (平成27年度:30,439人)	②年間延べ利用団体数 846団体 (平成27年度:846団体)
収支実績	1 収入 指定管理料 その他収入 合 計 2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 その他経費 合 計 3 差引 単位:円 24,852,395 7,344,631 32,197,026 16,707,339 1,450,751 3,017,970 4,643,001 964,384 5,384,828 32,168,273 28,753	
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い体験や世代間交流、地域交流の場を作っている。また事業実施後に反省会を開き、改善点を指導マニュアルに反映させており、事業の充実を図っている。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由) 施設の目的に沿って、野外活動に関する専門性を活かし、概ね計画どおりに事業を実施している。 また、黒川・里山事業では、黒川満喫プログラムの「ドラム缶ビザ焼き体験」、「みんなで流しソーメン」を3日間実施し、ともに200名前後の参加があり、「黒川大鍋まつり」では131名の参加があるなど、主催事業の開催にあたり、スタッフ配置や施設の活用方法を工夫して、ほぼ全ての主催事業で定員数を増やし、多くの参加希望者を受け入れ、事業を推進した。 その結果、利用者数は昨年度より増え、第2期指定管理時と比較して約12%の増となったほか、事業計画目標の年間利用者数30,000人についても、計画を上回る30,469人の利用があり、目標を達成した。 【参考】第2期指定管理時(平成21年度～平成25年度)年度平均利用者数:27,106人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	4	4
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費縮減の具体的な取組がなされているか			
	(評価の理由) 適切な金銭管理・会計手続きについて、会計処理及び金銭管理のための規則等に従い、適切に処理しただけでなく、施設の運営のための口座を1つの専用口座で管理運営しており、会計処理及び金銭管理のために特別な対応をしている。 効率的・効果的な支出について、概ね計画に基づいた適切な収入・支出がなされている。				

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) 施設・事業の広報について、主催事業のチラシを2色刷りから全面カラーの印刷物に切り替えたほか、新たにフェイスブックを活用し、日々の活動の様子や募集告知を記載したことにより、新たな層へ事業や活動を伝えることができるようになるなど、積極的な取り組みが行われている。 利用者に対する接遇については、適切に対応が行われている。 また、栗木台小学校5年生の総合的な学習の時間を利用して行われた「里山の授業」において、120人の児童がセンターに訪れ、職員及びネイチャーボランティアの講師である森林インストラクター協力のもと、里山について様々な角度から学習し、里山の手入れを行なったほか、桐光学園の生徒240名のボランティア活動を受け入れ、センターの森の手入れを実施するなど、学校等と連携した取組を推進している。 利用者ニーズについては、日頃から利用者とコミュニケーションをとり、気軽に利用者が意見を寄せられるような関係づくりに努め、利用者アンケートなどの意見、要望を把握し、夏期に工作室と集会室にリースでエアコンを設置した。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
(評価の理由) 人員配置については、主催事業の運営やプログラム指導の依頼に応じて柔軟な勤務体制を組んで対応しており、教員免許、保育士の資格を持つ職員を配置したことで、「森のようちえん」事業において、より専門的な立場で指導することができたほか、BBQインストラクター資格を持つ職員を配置し、「アウトドアキッチン」事業を展開するなど、資格を持った職員の専門知識が事業に活かされている。 職員の研修体制については、食品を扱う事業が多いため、食中毒等の予防や指導を専門的な立場で行えるよう、食品衛生責任者養成講習を受講するなど、専門的な技術とスキル向上を図るため、計画的に研修が実施されている。 黒川青少年野外活動センター個人情報の取扱い方針を遵守し、個人情報の取扱いについて、適切な運用を行った。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	4	4
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) 施設・設備の保守点検について、各種法令点検のほか、安全点検項目を定め月1回の定期点検を行った。また、年月の経過により破損している散策路の階段や手すりは、ケガ・事故を未然に防ぐために、修繕を行った。 利用者の安全確保について、緊急時マニュアルを整備しているほか、黒川の里山でみられる危険な動植物(クサノオウ、ヘビ、ムカデ、ハチ等)について利用者に知らせ、その対応について指導を実施するなど、利用者の安全確保に関する指導を独自に実施した。 防犯対策として、日常の巡回点検を実施し、職員が施設内を見回り、異常がないか確認し、不審者侵入防止等の取組をしている。 災害時への対応として、避難訓練を実施したほか、災害が発生した場合、汁守神社の備蓄倉庫食材を活用したり、黒川青少年野外活動センターの薪や炊事用具の供給を行えるよう、日頃から町内会と連携している。					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	66	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

フェイスブックの活用やチラシを全面カラーに変更するなど広報の充実に努めるとともに、黒川の地域性と専門知識を活かして、幼児親子向け事業を始めとする既存の事業に工夫を加え、より利用者ニーズに対応した企画・事業推進を図っている。
 また、野外活動にかかる専門性を有する職員が、さらにその資質の向上に努める研修を実施しており、プログラム指導マニュアルの改善に活かされていることは評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、多くの市民に黒川の自然の中での野外活動等を体験してもらえる環境を維持するとともに、アンケートの意見や事業実施後の反省会で出た改善点を反映させ、利用者ニーズに沿った事業を展開してほしい。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 30,439人 (平成26年度:29,386人)	②年間延べ利用団体数 846団体 (平成26年度:849団体)
収支実績	1 収入 指定管理料 その他収入 合 計 2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 その他経費 合 計 3 差引 単位:円 24,854,727 8,956,545 33,811,272 20,717,028 1,232,483 2,596,302 5,739,332 909,997 2,403,667 33,598,809 212,463	
サービス向上の取組	野外活動に関する知識や技術が豊富な職員が指導にあたり、満足度の高い経験や世代間交流、地域交流の場を作るなど、事業の充実を図っている。 また、アンケート等により利用者のニーズを捉え、優先度の高いものから対応策を計画、実施している。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	4	4
	(評価の理由) 施設の目的に沿って、野外活動に関する専門性を活かし、概ね計画どおりに事業を実施している。 主催事業の開催にあたり、スタッフ配置や施設の活用方法を工夫して多くの事業で定員を上回り、事業を推進した。 利用者数は昨年度より3.6%増加し、第2期指定管理時と比較して10.4%の増となった。 【参考】第2期指定管理時(平成21年度～平成25年度)年度平均利用者数:27,106人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) 仕様に基づき、適正な会計処理が行われた。 主催事業の参加者増による消耗品費、水道光熱費の増額等があるが、全体の収入の範囲で納めている。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) 分かりやすいホームページで更新も頻繁に行い、また、ブログでは写真を多く掲載しながら日々の活動の様子をリアルに伝えるよう努めており、各イベントの周知が図られ申込者が定員を超える事業も多くなっている。 利用者に対する接遇について、適切に対応している。 事業実施に当たり近隣の小中学校の受け入れを積極的に行い、また町内会の会合や防災訓練への参加、地域企業の休日に駐車場を利用させていただくなど、地域との連携、協力が図られている。 日頃から利用者とコミュニケーションをとり、気軽に利用者が意見を寄せられるような関係づくりに努め、利用者アンケートなどの意見、要望を把握し、優先度の高いものから事業に反映させ、廃材を利用したベビーベッドの作成などを実施している。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) 計画どおり適正な人員が配置され、所長を始め十分な経験と専門知識のある人材を活用している。 専門的な技術とスキルの向上を図るため、予定どおりの研修が実施された。 個人情報の取扱いについて、適切な運用を行った。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	4	4
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) 日々の清掃時間の中で点検を行い、修理等早急な対応をしている。また、大掛かりになる作業等は月1回作業日を定めて行い、適正な維持管理をしている。 利用者への安全対策として、手洗い、うがいの励行、AED講習会、雷検知器、熱中症計の導入による予防策等を行い、事故等を未然に防止している。 防犯対策として、職員の判別ができるようユニフォーム、名札の着用を徹底し、緊急時対応のための応急処置に関する講習を職員全員が受講している。 災害発生時のマニュアルが整備されており、法定訓練のみならず、町内会と連携した訓練も実施していた。また、災害時に備え、食料、飲料数を確保している。					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	71	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

ホームページの活用など広報の充実に努めるとともに、黒川の地域性と専門知識を活かして、幼児親子向け事業を始めとする既存の事業に工夫を加え、より利用者ニーズに対応した企画・事業推進を図っている。
 また、学校、行政、町内会や大学、近隣企業との連携を図り、地域により一層溶け込んで事業を推進した。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、多くの市民に黒川の自然の中での野外活動等を体験してもらえる環境を維持するとともに、職員研修等により専門性のスキルをさらに向上させ、利用者ニーズに沿った事業を展開してほしい。

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市黒川青少年野外活動センター	評価対象年度	平成26年度
事業者名	・事業者名 特定非営利活動法人 国際自然大学校 ・代表者名 理事長 佐藤 初雄 ・所在地 東京都狛江市岩戸北4-17-11	評価者	青少年育成課長
指定期間	平成26年4月1日 ～ 平成31年3月31日	所管課	市民・子ども局子ども本部子育て施策部青少年育成課

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 29,386人 (平成25年度:27,741人)	②年間延べ利用団体数 849団体 (平成25年度:789団体)
収支実績	1 収入 指定管理料 その他収入 合 計 2 支出 人件費・賃金 光熱水費 委託費 消耗品費 修繕費 その他経費 合 計 3 差引 単位:円 26086,679 6,355,522 32,442,201 19,665,980 1,684,517 2,324,030 4,583,636 355,997 2,782,421 31,396,581 1,045,620	
サービス向上の取組	利用団体等からの指導依頼を受けてプログラムを提供するなど、専門性が十分に発揮され、野外活動に関する技術や情報が集約されるセンターとして機能の充実が図られていた。	

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	4	4
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由) 施設の目的に沿って、ボランティアを育成しながら間伐などの森林整備を行い、野外活動に関する専門性を活かした各種プログラムの提供を行った。 当初の事業計画書の提案にはなかったロケットストーブの作成を行うなど、専門性を活かし創意工夫を凝らして事業を推進した。 利用者数は昨年度より5.9%増加し、第2期指定管理時と比較して8.4%の増となった。 【参考】第2期指定管理時(平成21年度～平成25年度)年度平均利用者数:27,106人				
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な収入が確保されているか	10	3	6
		計画に基づく適切な支出がなされているか			
		支出に見合う効果が得られているか			
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか			
(評価の理由) 仕様に基づき、適正な会計処理が行われた。 自主事業への参加者が増加し消耗品費及び報償費の支出が大幅に増えたが、全体では黒字を計上した。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	4	4
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	4	8
		把握したニーズが事業運営へ反映されているか			
(評価の理由) ホームページの更新を頻繁に行い、ブログでは写真を多く掲載することで日々の活動の様子を伝えるよう努めており、市政だよりへのエントリーも積極的にを行い、ラジオ広報番組による情報の発信も行っていて、各イベントの周知が図れ、抽選が必要になるなど申込者多数の事業も多くなっている。 利用者に対する接遇について、適切に対応をしていた。 事業実施に当たり近隣の小中学校や地域住民との連携を図って、黒川の里山保全活動を行っている。また、麻生区こども関連ネットワーク会議に年2回委員として出席した。 利用者アンケートなどの意見を事業に速やかに反映しており、近隣の中学生による音楽会の実施や、PTAからの講演依頼等にも積極的に応じている。また、気軽に利用者が意見を寄せられるよう、ホームページのトップページにメールアドレスを問い合わせ先として掲載している。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	4	8
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	3	3
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	(評価の理由) 所長を始め十分な経験と専門知識のある人材を活用し、計画どおり適正な人員配置を行った。 資格取得講習会には職員も受講させ専門的な技術とスキルを身につけるなど、予定どおりの研修が実施された。 また、個人情報の取扱いについて、適切な運用を行った。				
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	4	4
	利用者の安全確保	利用者の安全確保のため、工夫がされているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応が行われているか			
	防犯対策	施設の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	4	4
		災害発生時のマニュアル等が整備されているか			
(評価の理由) 施設点検シートを作成し、修繕の必要な箇所を把握し、排水溝などの大掛かりになる清掃作業は月1回作業日を定めて行い、適正な修繕に努めた。 事故等が発生した場合のマニュアルが整備され、適切な対応がなされていた。 防犯に係る緊急時のマニュアルが整備されており、計画にある防犯のための取組が実施されていた。 災害発生時のマニュアルが整備されており、法定訓練のみならず、町内会と連携した訓練も実施されていた。また、ペール缶を利用してロケットストーブを3台作成するなど、災害時に備えた。					

注) 配点×(評価段階÷5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

ホームページやラジオ等の媒体の活用など広報の充実に努め、乳幼児親子向け事業を始めとする既存の事業に工夫を加え、より利用者ニーズに対応した企画・事業推進を図っている。また、学校や行政、町内会や大学、近隣企業との連携を行い、地域により一層溶け込んで事業を展開した。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

引き続き、多くの市民に黒川の自然の中での野外活動等を体験してもらえ環境を維持するとともに、専門性に富んだ職員研修の成果を事業運営に反映すること。

様式例10

収支状況等確認シート

指定管理者名: 特定非営利活動法人 国際自然大学校
施設名: 黒川青少年野外活動センター
対象年度: 28年度

(単位: 円)

- 勘定科目、内訳:**

 - ・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
 - ・行は適宜、追加削除してください。
 - ・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。
- ①提案額:**

公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された提案額を記入します。
- ②予算額:**

年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。
- 「差額」及び「差額の要因」:**

「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。
提案額に対し一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。
- 決算額③:**

毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。
- 「差額」及び「差額の要因」:**

「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。
予算額に対し、一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内 訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
I 収入の部										
1 指定管理料		24,000,000	24,000,000	0	0.0%		24,852,395	852,395	3.6%	
2 利用料金収入	主催事業	4,020,000	3,600,000	-420,000	-10.4%		5,082,250	1,482,250	41.2%	参加者増のため
3 その他	雑収入	700,000	700,000	0	0.0%		917,381	217,381	31.1%	
4 その他	自主事業	1,800,000	1,500,000		0.0%		1,345,000	-155,000	-10.3%	
(小 計)		30,520,000	29,800,000	-420,000	-1.4%		32,197,026	2,397,026	8.0%	
II 支出の部										
1 人件費関係										
1 職員俸給		15,100,000	14,600,000	-500,000	-3.3%		13,683,299	-916,701	-6.3%	
2 職員諸手当		450,000	450,000	0	0.0%		827,016	377,016	83.8%	
3 臨時職員賃金		655,200	655,200	0	0.0%		666,252	11,052	1.7%	有休職員の代わりに臨時職員を雇用したため。
4 退職共済掛金		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
5 法定福利費		2,040,330	2,040,330	0	0.0%		1,530,772	-509,558	-25.0%	
6 その他		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
2 事業関係経費										
1 福利厚生費		60,000	60,000	0	0.0%		51,284	-8,716	-14.5%	
2 旅費交通費		60,000	60,000	0	0.0%		27,732	-32,268	-53.8%	
3 通信運搬費		312,000	312,000	0	0.0%		334,725	22,725	7.3%	
4 報償費		682,000	622,000	-60,000	-8.8%		765,500	143,500	23.1%	
5 研修費		100,000	100,000	0	0.0%		123,334	23,334	23.3%	
6 備品購入費		1,000,000	1,000,000	0	0.0%		7,538	-992,462	-99.2%	
7 消耗品費		3,620,000	3,660,000	40,000	1.1%		4,643,001	983,001	26.9%	主催事業の参加者増に伴い、消耗品も多く購入したため。
8 保健衛生費		60,000	60,000	0	0.0%		10,650	-49,350	-82.3%	
9 賃借料		531,000	531,000	0	0.0%		906,569	375,569	70.7%	
10 印刷製本費		210,000	210,000	0	0.0%		150,898	-59,102	-28.1%	
11 水道光熱費		1,650,000	1,450,000	-200,000	-12.1%		1,450,751	751	0.1%	
12 燃料費		120,000	120,000	0	0.0%		88,205	-31,795	-26.5%	
13 修繕費		500,000	500,000	0	0.0%		964,384	464,384	92.9%	電気工事、車検、ピアノ調律、畳入れ替え、トイレ配管工事を実施。
14 業務委託費	清掃委託費	2,760,000	2,760,000	0	0.0%		3,017,970	257,970	9.3%	
15 手数料		252,000	252,000	0	0.0%		258,696	6,696	2.7%	
16 損害保険料		350,800	350,800	0	0.0%		404,397	53,597	15.3%	
17 負担金		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
18 租税公課		2,000	2,000	0	0.0%		1,455,300	1,453,300	72665.0%	予算に計上していなかったため
19 その他		4,670	4,670	0	0.0%		0	-4,670	-100.0%	
20 一般管理費		0	0	0	#DIV/0!		800,000	800,000	#DIV/0!	予算に計上していなかったため
4 その他		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
(小 計)		30,520,000	29,800,000	-720,000	-2.4%		32,168,273	2,368,273	7.9%	
III 収支(収入と支出の差)		0	0	300,000			28,753	28,753		
収支比率(収入／支出)		100.0%	100.0%				100.1%			

記入時期の目安: 基本協定書締結時

記入時期の目安: 年度協定書締結時

記入時期の目安: 年度終了後速やかに

様式10

収支状況等確認シート

指定管理者名: 黒川青少年野外活動センター

(単位: 千円)

対象年度: 平成27年度

勘定科目、内訳:

- ・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
- ・行は適宜、追加削除してください。
- ・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額:

公募時に指定管理者から提出される収支予算書

②予算額:

年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:

「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。提案額に対し一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③:

毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:

「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。予算額に対し一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内 訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
I 収入の部										
1 指定管理料		24,000	26,087	2,087	8.7%		24,855	-1,232	-4.7%	消費税算定誤差額による指定管理料の減額
2 主催事業参加費収入		4,020	3,600	-420	-10.4%		6,058	2,458	68.3%	参加者増のため
3 借入金		0	0	0			0	0		
4 雑収入		700	700	0	0.0%		1,272	572	81.7%	
5 自主事業収入		1,800	1,500	-300	-16.7%		1,626	126	8.4%	
(小 計)		30,520	31,887	1,667	5.5%		33,811	1,226	3.8%	
II 支出の部										
1 人件費		17,590	17,090	-500	-2.8%		20,280	3,190	18.7%	
2 賃金		655	655	0	0.0%		437	-218	-33.3%	
3 福利厚生費		60	60	0	0.0%		61	1	1.7%	
4 旅費交通費		60	60	0	0.0%		30	-30	-50.0%	
5 通信運搬費		312	312	0	0.0%		356	44	14.1%	
6 報償費		682	622	-60	-8.8%		442	-180	-28.9%	
7 研修費		100	100	0	0.0%		193	93	93.0%	
8 備品購入費		1,000	1,000	0	0.0%		108	-892	-89.2%	
9 消耗品費		3,620	3,660	40	1.1%		5,739	2,079	56.8%	節電節水の呼びかけが功を奏したため
10 保健衛生費		60	60	0	0.0%		2	-58	-96.7%	
11 賃借料		531	531	0	0.0%		420	-111	-20.9%	
12 印刷製本費		210	210	0	0.0%		47	-163	-77.6%	
13 水道光熱費		1,650	1,450	-200	-12.1%		1,232	-218	-15.0%	
14 燃料費		120	120	0	0.0%		87	-33	-27.5%	
15 修繕費		500	500	0	0.0%		910	410	82.0%	
16 業務委託料		2,760	2,760	0	0.0%		2,596	-164	-5.9%	
17 手数料		252	252	0	0.0%		279	27	10.7%	
18 保険料		351	351	0	0.0%		380	29	8.3%	
19 負担金		0	0	0			0	0		
20 租税公課		2	2,089	2,087	104350.0%	消費税増税による影響額の調整	0	-2,089	-100.0%	消費税増税による影響額の調整
21 その他		5	5	0	0.0%		0	-5	-100.0%	
(小 計)		30,520	31,887	1,367	4.5%		33,599	1,712	5.4%	
III 収支 (収入と支出の差)		0	0	300			212	-486		
収支比率 (収入／支出)		100.0%	100.0%				100.6%			

記入時期の目安: 基本協定書締結

記入時期の目安: 年度協定書締結時

記入時期の目安: 年度終了後速やかに

様式10

収支状況等確認シート

指定管理者名: 黒川青少年野外活動センター

対象年度: 平成26年度

(単位: 千円)

勘定科目、内訳:

- ・公募時に指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された費目を記入します。
- ・行は適宜、追加削除してください。
- ・費目名だけでは内容が不明確な場合は内訳で補足してください。

①提案額:
公募時に指定管理者から提出される収支予算書

②予算額:

年度協定書の締結に当たって指定管理者から提出される収支予算書又は経費見積書等に記載された予算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:

「①提案額」と「②予算額」との差を記入します。提案額に対し一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

決算額③:

毎年度終了後に指定管理者から提出される事業収支報告書等に記載された決算額を記入します。

「差額」及び「差額の要因」:

「②予算額」と「③決算額」との差を記入します。予算額に対し、一定の差(原則として20%以上かつ1,000千円以上)が生じた場合に「差額の要因」を記入します。

費目	内 訳	①提案額	②予算額	①と②の差額	増減率	差額の要因	③決算額	②と③の差額	増減率	差額の要因
I 収入の部										
1 指定管理料		24,000	26,086	2,086	8.7%	消費税分が上乗せされたため	26,086	0	0.0%	
2 主催事業参加費収入		3,600	3,600	0	0.0%		4,301	701	19.5%	
3 借入金		0	0	0	#DIV/0!			0	#DIV/0!	
4 雑収入		700	700	0	0.0%		810	110	15.7%	
5 自主事業収入		1,500	1,500	0	0.0%		1,244	-256	-17.1%	
(小 計)		29,800	31,886	2,086	7.0%		32,441	701	2.2%	
II 支出の部										
1 人件費		17,150	17,150	0	0.0%		18,690	1,540	9.0%	
2 賃金		655	655	0	0.0%		1,036	381	58.2%	事務局経費として
3 諸謝金		622	622	0	0.0%		767	145	23.3%	事業の数が増えたため
4 旅費交通費		60	60	0	0.0%		33	-27	-45.0%	出張等が減ったため
5 通信運搬費		312	312	0	0.0%		356	44	14.1%	
6 備品購入費		1,000	1,000	0	0.0%		0	-1,000	-100.0%	エアコンの購入を見合わせたため
7 印刷製本費		210	210	0	0.0%		259	49	23.3%	所報のクオリティを保つため
8 消耗品費		3,840	3,840	0	0.0%		4,660	820	21.4%	主催事業の参加者を増やしたため
9 光熱水費		1,450	1,450	0	0.0%		1,684	234	16.1%	
10 修繕費		500	500	0	0.0%		356	-144	-28.8%	突然の修繕が無かったため
11 手数料		252	252	0	0.0%		171	-81	-32.1%	手数料をおさえたため
12 業務委託料		2,760	2,760	0	0.0%		2,324	-436	-15.8%	
13 負担金		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
14 賃借料		531	531	0	0.0%		579	48	9.0%	
15 一般役務費		0	0	0	#DIV/0!		0	0	#DIV/0!	
16 租税公課		2	2,088	2,086	104300.0%	消費税分が上乗せされたため	0	-2,088	-100.0%	消費税が分散されたため
17 保険料		351	351	0	0.0%		379	28	8.0%	
(小 計)		29,695	31,781	2,086	7.0%		31,294	-487	-1.5%	
III 収支 (収入と支出の差)		105	105	0			1,147	1,188		
収支比率 (収入／支出)		100.4%	100.3%				103.7%			

記入時期の目安: 基本協定書締結

記入時期の目安: 年度協定書締結時

記入時期の目安: 年度終了後速やかに